

極東開発工業

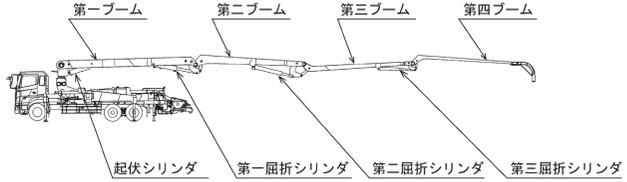
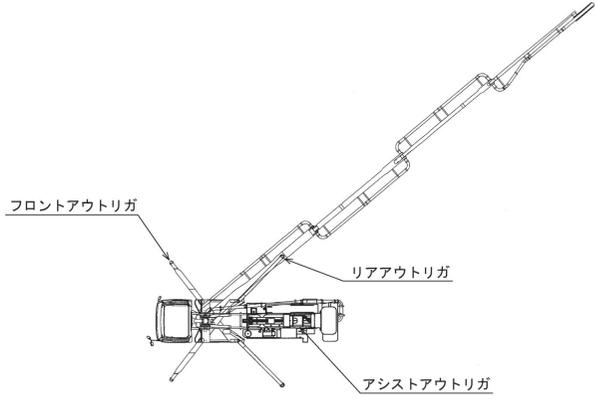
適用範囲		モデル名		PH50C-17	
		主仕様	吸吐弁形式	-	スクィーズ
			最大吐出量	m ³ /h	50(36)
			最大吐出圧力	Mpa	1.8(2.5)
			アーム最大地上高	m	17
適用号機		21P08-0015~			
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	-	
		ローター回転数	回/min	40±1	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(シャシで異なる)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
	カクハツウチ 攪拌装置	回転速度	min ⁻¹	30±3	
		チェーンのたわみ	mm	20・チェーン中央	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(シャシで異なる)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
	真空ポンプ	圧力設定値	Pa	0.083	
		(設定値到達時間)	(min)	(10分以内)	
圧力降下許容量		Pa	0.007		
(保持時間)		(min)	(60)		
	Vベルトのたわみ	mm	<電動モーター駆動>		
作業装置	シリンダー 自然降下量	ブーム(1)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(2)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(3)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(4)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(5)シリンダー	mm	-	
		(測定時間)	(min)	(10)	
		(作動計測条件)	(-)	(-)	
		(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.1]	
	ブーム装置	☆ ブームシリンダー 作動時間	ブーム(1) 伸び	sec	60±10
			縮み	sec	60±10
ブーム(2)		伸び	sec	45±10	
		縮み	sec	65±10	
ブーム(3)		伸び	sec	45±10	
		縮み	sec	60±10	
ブーム(4)		伸び	sec	20±10	
	縮み	sec	30±10		
	ブーム(5)	伸び	sec	-	
	縮み	sec	-		
	(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)		
	(作動油温度)	(°C)	(50±10)		
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図面No.3]		
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	Mpa	2.5	
		油圧	Mpa	-	
		水圧	Mpa	-	
	空圧機	吐出圧力	Mpa	-	
		飛距離	m	-	
	(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	-		
	(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	-		
	(作動油温度)	(°C)	-		

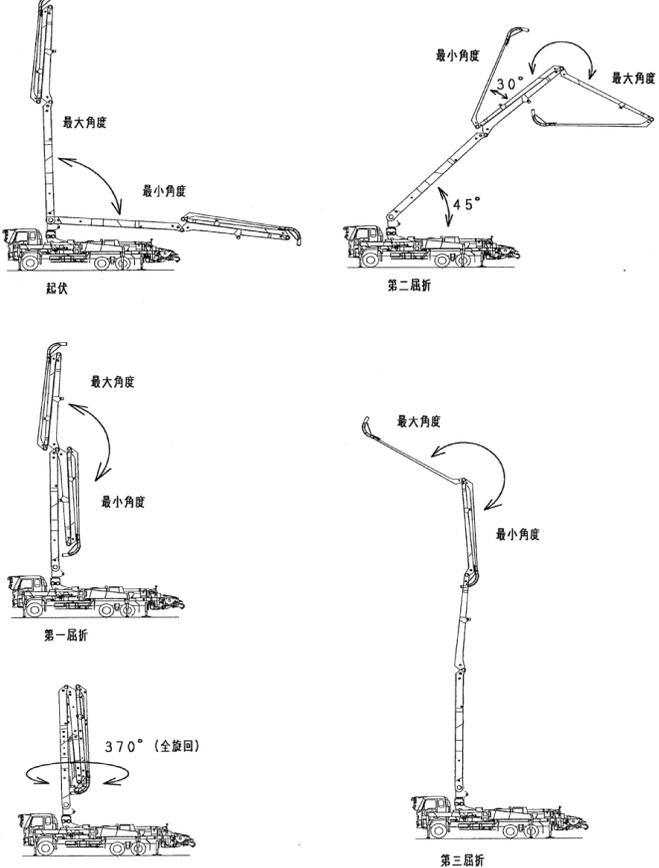
☆印：新車基準値を表す(参考値)

コンクリートポンプ車

適用範囲		モデル名		PH50C-17	
		主仕様	吸吐弁形式	-	スクィーズ
			最大吐出量	m ³ /h	50(36)
			最大吐出圧力	Mpa	1.8(2.5)
			アーム最大地上高	m	17
適用号機		21P08-0015~			
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
油圧装置	☆ 油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	25.0±1	
		弁シリンダー油圧	MPa	-	
		攪拌モータ油圧	MPa	8.0±1	
		ブーム油圧	MPa	27.5±1	
		ACCガス封入圧力	MPa	-	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(シャシで異なる)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
	車体・安全装置	☆ 旋回ベアリング 取付ボルトの締付	外輪取付けボルトの 締め付けトルク	N・m	325.6±9.8
			内輪取付けボルトの 締め付けトルク	N・m	325.6±9.8
旋回ボルトの交換基準		年	特記4)		
☆ 旋回作動速度	旋回速度	sec	55±10		
	(旋回作動角度)	(度)	(360・全旋回)		
	(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)		
	(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(シャシで異なる)		
	(作動油温度)	(°C)	(50±10)		
アウトリガー	シリンダー 自然伸縮量	各垂直シリンダー	mm	0.5 以下	
		(測定時間)	(min)	(10)	
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.2]		
特記事項	1)ポンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うのでオペレータに異常の有無を確認し異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ポンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。 3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪又は内輪)のボルト全数交換。				

☆印：新車基準値を表す(参考値)

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p> 
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p> 

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p> 

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p>
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p>

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p>